

令和7年度第2回京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会  
会 議 録

- I 開催日時 令和8年3月30日（月） 午後1時30分～午後3時00分
- II 開催場所 大宮庁舎 401・402会議室
- III 出席者 丸田智代子会長、松原典孝副会長、梅田利也委員、諫早直人委員、  
藤田泰弘委員、増田俊彦委員、中村秀雄委員、中井成美委員、  
辻壽和委員、小林朝子委員、末次一子委員、石崎善久委員  
（※松原副会長、諫早委員、小林委員、石崎委員はオンライン）
- 事務局 松本明彦教育長、川村義輝教育次長、  
村田雅之課長、岡林峰夫課長補佐、奥勇介主任
- 欠席者 上杉和央委員、岡田実希委員、小松裕美子委員
- 傍聴人 0人

IV 次第

- 1 開会
- 2 議事
  - (1) 令和7年度の主要実施事業報告 [資料2・3-1・3-2]
  - (2) 計画措置の進捗評価 [資料4]
- 3 その他
- 4 閉会

V 議事要旨

1 開会

<事務局>

本日は、公私ともに御多忙のところ御出席いただきまして、ありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから令和7年度第2回京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会を開会いたします。開会にあたりまして、京丹後市教育委員会から、松本明彦教育長に御挨拶いただきます。

<教育長>

皆さんこんにちは。本日は本当に御多用の中、また年度末の押し迫ったあと2日というような時期での会議になり、大変申し訳なかったわけですが、第2回の京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会に御出席いただき誠にありがとうございます。

さて、令和7年度を振り返っていきますと、この地域計画を立てるにあたって、保存だけではなく活用にもしっかりと軸足を置いた取組をしていかなければならないということで、委員の皆様からの様々な御意見をいただきながらこの計画を策定したわけですが、7年度につきましては、そういう意味では活用の面でも第一歩を踏み出せたのではないかなと思っています。

とりわけ昨年の4月には、網野銚子山古墳のオープニングイベントということで1,000人近い方々に集まっていただきながら、保存の側面だけではなくて今後の活用という面でも、いろんな方々に考えていただく良い機会になったのではないかなと思っています。来年度の予算でも、秋頃にもう1回イベントとして進めていこうと考えておりますので、またそういう際に委員の皆様からも様々な御意見をいただけて、より良い形になっていけばいいかなと思っています。

また、活用の面においては教育の側面が重要であるという御指摘もいただきまして、本年度は須田平野古墳の発掘調査に丹後緑風高校久美浜学舎の生徒の皆さんにも探究的な学びで関わっていただきまして、歴史を自らの手で解き明かすというような体験と一緒にしていただきました。そうした教育の面からの活用も少しずつ、丹後学との関わりの中で進めてきているというような状況でございます。

さらには、来年3月に震災から100年という節目の時を迎えますので、丹後震災につきまして、子供たちや、さらには網野、峰山以外の町の市民の皆さんにもう少し理解を深めていただき機運を醸成していく必要があるんじゃないかという御意見を多くの皆さんからいただきしております。そうした機運を醸成していくという意味で、パネル展示を各小中学校の方で1年間かけてずっと巡って、来年の100年までにはすべての学校で震災の展示をさせていただく中で、来ていただく方や子供たちの意識を高めていこうということです。展示したところでは非常に学びになったというような声をいただいておりますので、そうした声も十分活用しながら取組を進めていけたらと思っています。

本日の協議会では、大変多くの資料を毎回示させていただいているわけですが、事業の進捗の評価について御審議いただこうと思っています。80幾つもあるような項目ですので、焦点を絞って皆様から専門的な知見を踏まえて、忌憚のない御意見をいただければと思っていますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

ありがとうございます。続きまして、会長より一言御挨拶いただきます。会長お願いいたします。

<会長>

皆さんこんにちは。カニがもう終わりでやっとほっとしたかなと思っている時に、最後の締めの大役をいただきまして、ありがとうございます。

桜の花を見ていると本当にのどかで変わらず、今年も花が見られるかなと思っている

中で、やはり中東のイランの様子などを見ていると、ここまで来るのにガソリンの値段が気になって走ってまいりました。本当に世の中が変わっていくことを実感しながら、今日もこの大変な会議を皆さんと一緒に進行させていただきたいと思えます。よろしくお願いいたします。

<事務局>

ありがとうございました。次に、本日の資料の確認をさせていただきます。お手元の資料をご確認いただけたらと思います。

なお、資料の配布が本日ということになりまして、先ほどもお話ありましたが大変申し訳ございませんでした。次年度以降もこの推進協議会があるわけなので、事務局の方でしっかりと気を引き締めて来年度もさせていただきたいと思えますので、皆様御理解のほどよろしくお願いいたします。

それでは、お手元の会議次第により、進行をさせていただきたいと思えます。

本日はZoomを併用しております。松原副会長、諫早委員、小林委員、石崎委員はZoomで参加いただいております。皆様よろしくお願いいたします。また、上杉委員、小松委員、岡田委員より欠席の連絡をいただいております。

次に会議録の確認者の指名に移ります。本協議会で協議した内容は、会議録を作成し公開いたします。後日、会議録を確認していただき、署名をいただく方の選出をお世話になりたいと思えます。事務局といたしましては、名簿の順番で地元の委員の方をお願いしたいと考えていますが、よろしいでしょうか。

(異議なし)

それでは、名簿の中から藤田委員をお願いしたいと思えます。藤田委員、よろしくお願いいたします。

(藤田委員、承諾)

<事務局>

それでは議事に従いまして、会長から進行をお願いしたいと思えますので、よろしくお願いいたします。

## 2 議事

### (1) 令和7年度の主要実施事業報告 [資料2・3-1・3-2]

<会長>

本日は15時までを予定していると聞いております。円滑な議事の進行に御協力をお願いいたします。次第に沿って、(1) 令和7年度の主要実施事業報告について、資

料説明をお願いします。

(事務局より資料説明)

<会長>

これらの内容について委員の皆さんから御意見や御質問があればお願いします。どうでしょうか。

<委員>

2月28日にあった成果報告会の中で、市立資料館で指定文化財を収蔵公開することを目指すというようなことが言われたようですが、これは今後の京丹後市の方向でいいのでしょうか。これが1点目です。

それからもう1つは、震災記念館の耐震ですが、これは来年度の中でどのような耐震工法が可能なのか見ていただいて、次の年に設計施工ということになるのでしょうか。つまり、中に人が入るようなことを前提にして、再来年工事を目指して内容が進んでいると考えてよろしいでしょうか。これが2点目です。

3点目は、もうすぐ震災から100年になります。京丹後市の中で何か記念行事があるかなと思っていました。毎年同じことを繰り返しているなど思っていましたけども、実は祥雲寺という、上山田の高いところにあるお寺さんに行ったんですよ。そしたら、そこで法要があったんですよ。山田断層の一部が動いて死者が出てます。そうになると、峰山でも網野でもそういうことがないなど。行政と話が違うという部分もあるんですけども、ちょっとあれという風に私は思います。もう少し、次の震災に備えて何か方法がないかなと、あれやこれやと考えながら思っています。

<事務局>

ありがとうございます。今の御質問3点ございますけども、まず1つ目の2月28日の湯舟坂プロジェクトの成果報告会についてです。御存じない方にも前提としてお話をしておきますと、久美浜町須田という地域の湯舟坂2号墳の中から、昭和56年に遺物が出土しました。これは国の重要文化財に昭和58年に指定されておりまして、具体的には環頭大刀といいまして、柄頭が金メッキされた龍の対になったものということで御存じの方もいらっしゃるかと思うんですけど。これをはじめとする200数十件の遺物を一括して重要文化財ということになっております。

重要文化財というものは、収蔵して公開するのに制限があります。具体的にはいくつか条件があるんですけど、一番大切なのは資料館に常駐する専門の正規職員がいるということがハードルとしてありました。これを何とかするべく、こちらの中でも今準備を進めているところで、「市の方向性はそういうことでいいのか」という質問に対しては、「そうです」ということになります。また準備できた段階には、皆様に重要文化財を市が収蔵して公開するというお知らせができるのではないかと考えており

ます。1点目は以上になります。

2点目、丹後震災記念館の耐震化・利活用検討委員会、長らく進めてきているわけですが、令和6年度末で方針書というのを取りまとめました。今年度はそれに伴って耐震診断を再度行い、あわせてこれを直すにはどういう工法が適当でどれくらいのお金がかかるのかということ調査させていただいておりました。実は先日の3月議会の一般質問でも市議会議員の方から質問がありまして、そこで答弁をしていただいておりますけれども、その時点でわかっている内容といたしましては、耐震工法についてはある工法でいけば一番安くかかるもので13億2000万円ほどかかるという概算の結果が出ております。これをもとに基本計画を今年度末で定めることとなります。令和8年度は、その工法の中にも文化財というものを直すためには簡単にいかない部分がありまして、そこをクリアするための工法というのは引き続き検討していきたいと考えております。その設計施工は次の年かということをお願いしていただいておりますが、これについては今申し上げたような金額がすぐに準備できるわけではございませんので、そういったことを勘案しながら、例えばクラウドファンディングを進めていくなどする中で、準備が整った段階で設計施工には入りたいと事務局としては考えているところです。

3点目の丹後震災の法要みたいなもの。実は京丹後市内でもされているところがありまして、網野町掛津の海蔵寺はされまして、来年が百回忌ということ。実は大宮町口大野の常德寺というところは今年百回忌の法要をなさって、新聞報道も若干あったと聞いています。ただ多くの寺院で法要を営んでおられるということではないようで、京丹後市も100年の節目ということで、何らかの追悼行事ということできればと思っています。もっと言いますと、3月議会の最終日で令和8年度当初予算の承認をいただいておりますが、その中に総務防災課の方で丹後震災100年記念の実行委員会的な組織を作るという予算をいただいております。総務防災課が取りまとめるという形にはなりますが、教育委員会も一緒になって事業に取り組んでいきたいと考えております。

#### <委員>

かつて合併前の峰山町ですけれども、昭和の30年代初頭ぐらいまで慰霊祭をやっていたんですよ。だからそういう点では何か記念の行事というか、慰霊の気持ちがある人はあるわけで、それを宗教に絡めてというわけではないですが、少なくともそういうようなことを考えていただきたいなというふうに思います。

#### <事務局>

慰霊祭という名称は差しさわりがありますので、追悼行事やそういった記念行事ということになるかと思えます。

#### <会長>

ありがとうございます。ほか、御質問お願いします。

#### <委員>

先ほどから文化財の活用ということがあったんですけど、活用するためにまず知ってもらうことが大事かなというふうに思います。だから、そういう機会をどんどん増やしていただきたいなということは思ってるんですけど、私自身あんまり行ってないので偉そうなこと言えないんですけど。

網野銚子山古墳の事業で、オープニングで延べ1,000人来場されたということなんですが、オープニング以後、1年ほど経つんですけども、その間はどのようなふうになっているのかということをおちょっと教えていただければなということが1点。

それから2点目が、丹後震災100年に向けた取組ということで、弥栄地域公民館の展示を見せてもらったり丹後小学校の例をおちょっと見せてもらったんですけど、本当にいいなと思って。全然知らなかったことがいっぱいその映像として伝わってくるといふ部分は、それが京丹後市の中で回って行って、子供たちから大人まで見る機会があることは本当に素晴らしいことだなと思っております。ぜひ続けていただきたいなと思ってます。実は私は弥栄町吉澤の人間なんですけれども、川東で震災の被害がほとんどなかった地域なんです。だから、おじいさんおばあさん方から丹後震災の被災の状況というのはあまり聞くことがなかったんです。峰山の方を見ると焼け野原だったと聞くんですけど、あまりピンとこないという部分があるので、ぜひこういう取組を続けていただけたらなということをお思ってます。

最後3つ目ですけど、出前授業等の対応ということで、私も学校関係におりましたので、学校の出前講座あたりはどのような状況なのかなど。やっぱり子供たちがそういうことを知っていくということが、これから担っていく世代の人たちが知っているということが大事なことだと思います。これの状況があったら教えていただきたいなと思います。以上です。

#### <事務局>

まず1つ目なんですけれども、網野銚子山古墳のその後の来場者の推移ということなんですけども、しっかりとした統計を取っているというわけではありませんので肌感覚の数字ということにはなります。やはりオープンしてしばらくは、駐車場にひっきりなしに車が止まっているような状況がありまして、わりかし来場者はいたと思います。ただ秋口から最近につきましては大分それが落ち着いてきているかなというところになるかと思います。それで車のナンバーとか見てますと、やはり京都じゃなくて大阪の方でありますとか神戸の方でありますとか、他府県ナンバーがちょこちょこ見受けられるので、少し多いような印象を持っております。

2つ目の件、ありがとうございます。震災100年につきましては、震災100年のプレイベントという形で今年度各小中学校を回るということとあわせて、各地域公民館も、今だとちょうど春休みということで弥栄地域公民館でさせていただいております

が、令和8年度も継続して今の終わった以外の小中学校、それから地域公民館を順番に回っていきますので、また皆様の目に触れる機会もあるのではないかなと思いますし、ぜひまた見ていただけたらなと思います。

それから3つ目の出前講座の状況ですけれども、集計を見てますと今年度が学校対応等16件ほどしております。実際、丹後中学校とかいろいろと行かせてもらいましたけど、すごい歴史に興味を持ってお声がけいただけてますし、その場ではここでも御紹介させていただいた副読本も活用して授業させてもらってますので、非常にいい形で出前講座させてもらってるかなと思います。

<委員>

わかりました。ありがとうございます。本当にこれ今後もできるだけ広報していただいたりして、そのことを続けてもらって、子供たちとか大人も含めてですけど知ってもらうことが一番かなと思いますのでよろしく願いいたします。以上です。

<会長>

そのほかどうでしょうか。

<副会長>

丹後震災記念館について具体的に進んでいること心強く思います。合わせて、郷村断層の方も、ぜひ議論の俎上に上げていただけるような形にさせていただきたくて、具体的に言うと、メインの建屋のところの中身が少し傷んでいて、保存状態が良くないような状態だったりしているので、何か全体的に他のところも含めて、将来的に見やすいというか、場合によっては観光などでも使いやすいような形になればありがたいなと思います。100周年に関しては、山陰海岸ジオパーク推進協議会もいろいろ合わせてやらせていただきたいと思っております。

あと震災復興建築群に関する位置付けで、丹後震災記念館については議論の中心に上がっていますが、他の峰山小学校や口大野村役場などに関しては何か活用の位置付けはあるのでしょうか。

<事務局>

ありがとうございます。郷村断層に関しては3ヶ所保存をしているわけですし、小池地区、生野内地区、それから樋口地区という道沿いに建屋がすぐ見られる場所ということで、先ほどお話いただいたジオパークの推進協議会の関係でもお世話になっておりますし、市立各小学校の大地の学習でも訪れていただいております。ただ建屋の中の保存状態があまりよろしくないということで、2・3年前にも文化庁の方に見ていただいたりしたことがありますし、郷村断層も何とか保存、もしくは見せ方含めて改修していく必要があると事務局も課題意識を持っております。

その中で震災100年ということで、丹後震災記念館を中心に取り組んでいます。

当然郷村断層のことも承知しております。郷村断層の保存活用計画をまずは立てて整備していくことになります。早期にやろうとしても数年かかるものになりますので、そこは震災100年の節目を機に令和9年度以降で考えていくことになると思います。

それから2点目にありました峰山小学校・旧口大野村役場等の震災復興建築については、建造物はどうしても保存管理に多大なコストがかかります。ただ、特に峰山小学校は丹後震災記念館と同じ年に建てられた建物、旧口大野村役場もそれとそう変わらず長く残っているものになります。課題意識はしっかり持ちながら、地域計画の中にも震災復興建築の活用は措置として挙げています。一つ一つ着実にやっていくのが大事ですが、時が過ぎていくということも一方でありますので、意識を持ちながらこれからもしていく必要があると思っています。

<副会長>

ありがとうございます。

<会長>

ほか、ございませんでしょうか。

私から、2番の補助金活用事例はどのようなことで活用されたかということと、それから3番、銚子山古墳の入り込みっていうのを、例えば入場券取ってるわけでもないし、そこにガイドさんがおるわけでもないし、その辺の活用のデータはどのような方法でありますか。実際に整備にすごいお金がかかっていることは市民は理解しているんですが、どのような形で人が入ったかを調べるのかなということが疑問です。こういう誰も管理する人がおらず、整備したもののその後の調べ方っていうのは何か方法があるんでしたら、教えていただけたらなと思うんですけどその辺どうでしょうか。

<事務局>

市民遺産の補助金についてですけれども、今年度1件使用があるということで、これは認定第3号の俵野廃寺になります。俵野廃寺の礎石がもともとその廃寺から出ているんですけど、それが京丹後市に預けられていたものを、地元が市民遺産にも俵野廃寺がなったし、積極的に活用していきたいということで礎石を俵野区に返還させてもらったという経緯がありまして、その礎石のところに俵野廃寺を紹介する看板を立てたいということで申請をいただいて、補助金を活用していただいている状況です。その他、久美浜一区秋祭りなどでもお声をいただいているんですけど、今年度補助金の成立がなかなか時間かかって遅れたということもありまして、今年度の補助金の活用事例は現在1件にとどまっているというところで、来年度そういったお祭り関係とか他の案件もぜひ活用したいという声を聞いてますので、来年度以降になってきたらまた活用件数が増えてくるかなと考えてます。

それで次、銚子山古墳の入り込みの把握の方法ということなんですけれども、それこ

そいい方法があったら教えて欲しいなというところではあるんですが、ただ1つうちで考えていることにつきましては、ガイドンス施設に網野銚子山古墳のパンフレットを配架してるんですよ。その減り方ですね。何枚はけたかというところで概数がわかるんじゃないかなと考えています。ちょっと今手元に資料がないので何枚というのは申し上げられないんですけども、それが1つの指標になるのかなということは考えているところです。

どうしても大型バスで何台入ってきたか、他府県の方がどれだけ見えられたかというのには読めないところです。少なくとも今申し上げたようなことは最低限やっているところですし、これからは例えば入口を人が通過した時にカウントするようなものも高額にならずにつけられそうなことも聞き及んでいます。もちろんガイドンス施設に入られずに古墳に直接行かれる方もあろうかと思いますが、少なくとも駐車場の目の前にガイドンス施設があってトイレがあれば、かなりの方がかなりの確率で入っていただいているんじゃないかと思います。

<会長>

ほかはどうでしょうか。

<委員>

私は本当に知識があんまりなく移住者のものですから、丹後震災についても、そうなのかと勉強することばかりなんですけれども。そもそも丹後震災100年っていうのは、皆さん知ってるけど、丹後震災がどういうものだったのかを知らない大人って結構周りにいるなと思っていて、「100年らしいよ」で終わることが結構多いなと思っていて。今されている小学校と地域公民館って、大人はなかなか行かないんですよ。興味のある人は行くけど、大人はなかなか行かないっていうところになると、情報が入ってこない人は行かないじゃないですか。今、南海トラフとかも騒がれている中で防災の意識が大人の中にも高まっていると思うので、大人の層を。もちろん教育という観点で子供たちっていうのは大事なことですし、今素晴らしいことされてると思うので続けていただきたいんですけども。さっきおっしゃっておられた追悼行事とかを、どのタイミングでどうするみたいな、もうちょっと具体的に今日お聞きできるかなと思っていたので、令和9年の3月に向けてだったらもう動き出しておかないと多分行政は遅いですよねっていうのを、お話を伺いながら思っていたところです。

あともう1つ、網野銚子山古墳についてなんですけれども。これも私が生活している中で見ていると、4月のオープニングイベントはすごく大盛況だったし、私もお仕事で関わらせていただいたりとかして、皆さん周りの中でも話題になっていると思うんですけど。それから、当時お話を聞いた中だと、イベントとかで自発的に使ってもらいたいみたいなお話をお聞きしていた中で、網野銚子山古墳で市民が自発的にイベントをされたことって今のところ私は聞いてないなと思っておりまして。その辺がもっと広まると、もちろんガイドンス施設に入ってくれる人も増えますから、これから

の保存活用に増えていくと。せっかく整備したんだから側だけでも使ってもらわないと、その保存活用には繋がらないっていうか、そのために整備をしたんだと思うので、そのあたりについての今後の意向っていうのをお聞きしたいなと思っております。

この計画の中でも続いていく2つの事業だと思っておりますので、そのあたりは早い早い目にちゃんと考えていただけたらなと思っております。以上です。

#### <事務局>

震災100年の取組ということでは、確かに今、知らない大人もいるということでありましたので、広報不足な部分も否めないところもあるんですけども、今年度の途中からプレイベントという形で、対象年代をある程度小中学校だとかに絞っている面もあるんですけども、取組はさせていただいております。あとは例年ですけれども丹後古代の里資料館で、丹後震災展を今現在もやっている最中なんですけれども、展示をさせていただいて、お越しいただいて皆様に見ていただくということもさせていただいております。しかし100年という大きな節目、もう二度とないその節目という中では、まだまだ我々のその取組というのが弱く見えてしまうというところはあると感じているところです。まだ今からできることが多くありますので、令和8年度もう間もなくスタートいたしますが、そのスタートダッシュからこの震災100年の取組というのは、文化財の方も頑張っておきたいと感じているところです。ありがとうございます。

網野銚子山古墳のことについてなんですけれども、地元で何か使われているかというところなんですけど、使われている事例というのは実は少なく、地元の方が毎年夏に納涼祭みたいなことをされるんですけどもそれで使ってみたりとか、地蔵盆で使ってみたり、そういったことはされてますけれども、例えばフェスをやるとかマルシェをすることとかそういった使い方というのは今年度はなかったというところです。また次のところで、実はその辺お知恵をお借りできないかなという提案をちょっとしようかなとまさに考えていたところであって、そこら辺の見通しというところで正直まだたっていない部分もございますけれども、1つ言えることは、来年度また古墳フェスということで、オープニングイベントほど大きい規模にはならないですけど、ちょっと秋頃にそういうフェスをしていって、活用に向けての機運を醸成していくという取組を進めていきたいなと思っております。それをどういうふうにも有効に実施していくかというところにつきましては、ちょっと次の議題のときに御意見を聞きたいと思っております。

#### <事務局>

資料3の方、3-1と3-2の2つがございまして、こちらの説明をまずさせていただきます。

(事務局より資料説明)

<委員>

それは今後継続されるということで理解しましたが、それでよろしいですか。形とすればやっぱりスタンプラリー形式を継続される予定なのか、これもうすでに決まってるかどうか。それから海の京都DMOとすればこれはプロモーション的な方で関係されるということだと思っんですが、そのほかにDMOとすれば運行形態、いろいろ形を変えたところがある気がしたので、それも含めてスタンプラリー等との組み合わせは今後可能性としてあるようなので、どう考えられるか。

<事務局>

このツアー及びスタンプラリーにつきましては来年度もしていくという予定で聞いております。観光公社の方が中心として進めていってるとのことなんですけれども、私どもは相談に乗ったりとかできるだけの協力をさせていただくという形になっております。そういう形で令和8年度も引き続きツアーについてもスタンプラリーについても続けていくという形でご理解いただければと思います。

DMOとの関わりなんですけれども、その辺は正直餅は餅屋じゃないですけれども、任せているという部分もございますので、ちょっとわからないところもございますけれども、できる限りのことはやっていけるようにこちらも情報収集をしていきたいと考えています。

<委員>

網野銚子山古墳を考えるときには、私ちょっと別のことも考えてしまうんですよ。というのは、京丹後っていうのは、京都府の中にある1万3000基の古墳のうち6,000基を有するというので約2分の1ぐらいが京丹後市の中にあります。兵庫県でもあるいは滋賀県などにも集中してるんです。要は京都府の中で、2基に1基の古墳が京丹後市にあるということです。そういうようなことを考えたら、網野銚子山古墳は特別な古墳で200mを超える古墳はここにしかないですし、全国でも40位以内の大きさであることは間違いないんですが、問題はそこだけに留まらない気がするんです。京丹後の古墳文化を考えたら、もっとやることあるんだろうなと思っています。京丹後市が誕生して、文化財保護課はまず網野銚子山古墳を整備したわけです。問題はそれが終わった後ですね。終わった後、次の町はどこにしようみたいな話が多分あったと思うんですけれども、網野銚子山古墳はとりあえず整備が終わった良かったねっていうだけじゃないような思いがあるんですけれども、これについてはどうですか。つまり、網野銚子山古墳が終わった後どうするのということです。網野銚子山をどう守るかということもあるんですが、他の古墳はどうするのということも考えないと困ったことかなと思っています。

#### <事務局>

網野銚子山古墳は、やはり京丹後市の中で最大の古墳ということもありますし、非常に価値のある古墳ですから、これをまず整備するというのは、前の史跡整備検討委員会の方でも決まっているということなんですけれども。先ほどおっしゃったように、古墳や遺跡に限ってみても、銚子山だけではない、たくさん活用していかなあかんものはあるという認識は持っておりますけれども、やはりマンパワー的なところもあります。

1つあるのは、それこそ先ほど申し上げましたように、湯舟坂2号墳の遺物がこちらに返ってくるということもあります。あれも立派な丹後の古墳文化を象徴する遺跡の1つと考えておりますので、修理作業が終わってこれからどういうふうに丹後古代の里資料館の方で活用していくかっていうところが大きな課題にもなっておりますし、例えばそういうところから、大きな古墳だけを見るのではなくて、その遺物的なところも見ていくということも、古墳文化を見直していくという1つの視点ではないかなというふうには思います。

#### <委員>

まず、今までの報告を聞いた中で、令和7年度を振り返ってみますと、京丹後（奥丹）には万博の関係でお客様は少なかったというのが1つの結論だろうなと思います。バスもチャーターできない状況、運転手も確保できないという状況があって、そういう意味では、網野銚子山古墳がそのあと続けられなかったというのも1つの原因になっているのかなとも思ったりします。

いろんな人たちから出ています、本当にいいものができてそのあと活用をどうしていくかっていうのは本当にこれからの大きな課題に、どんなことでもそういう課題になると思うんですね。箱作ってもそれをどう利用していくかっていう、それと同じようなことに通じていくのではないかなと思います。

この会議以外にも、京丹後市の会議に参加させていただいてまして、言えることが2点あります。1つには、それぞれの部課では一生懸命されていますのに、それが京丹後市として共有されていない。1つの例を言いますと、この4月1日から新しく美食のまちづくり推進課がスタートしますね。市の広報の中で、課長1人、部員1人、非部員2人、計4名で美食のまちづくり推進課がスタートするそうです。この美食に関する問題につきましては私も目からうろこでしたけど、10年前の市議会で一致で、この美食を京丹後市としてやっていこうということで10年経った。その1つの成果としていろいろやってきたことをさらに推進していこうということでこの美食のまちづくり推進課ができたと聞きました。

その話も聞かせていただきながら、京丹後市として本当に今後どう発展させていくのかということ考えたときに、この美食と、それからやっぱり丹後王国に繋がるこの素晴らしい遺産ではないかなと思います。なので、そういう意味では教育部の皆さんにもどんとどんと大きな顔をして発言していただきたくて、そのこともお願いしたい

なと思いますけれども、そういう意味では本当にバラバラで一貫性がないなというのが私の思いです。ですからそういうところで本当にすり合わせして、将来的なことをやっていかないと、本当にいろいろな事業が進んでいかないのではないかと思います。

湯舟坂2号墳の遺物が返ってくるなんていったらもうすごいことですし。

ガイドの最先端でお客様と接する機会が多い私たちとしましては、丹後王国の話、それから大成古墳から出てきた出土品が今どこにあるんですかとかいうような話、諸々の話をいっぱい聞きますので、やっぱりそれが今度返ってくるってことは素晴らしいことだし、これをどんなふうを利用して、そしてなおかつ食べていくことも大事だなと。

今日、本当のほやほやの嬉しい話で、午前中に情報センターに寄ってくださった70代前半の女の方が、「おいしいカニもいただきました」、そして竹野遺跡のことを質問されましたのでお話をさせていただきます、「素晴らしい歴史の話も聞かせていただきました」、「今日はもう本当に大満足です」って言って帰っていただきましたので、そういう話がどんどんと京丹後市を訪れてくださったお客様から出るということを大きなビジョンにさせていただいて、将来的なことを何と何でやるかというようなところで話をまとめていっていただくのが一番いいのではないかなとこんなふうに思いました。

そういう意味では、1万3000の半分があるわけですから、この京丹後市どこ掘っても出てくるわけですから。その上に私たちは日々暮らしておりますので、それとカニをはじめとする美食でやっぱり生き残っていく、将来を発展させていくというところで、頑張っていけるように行動をしていきたいなと思います。またそういうための行政の皆さんになっていただきたいなとこんなふうに思いましたので、意見として聞いてください。

#### <事務局>

ありがとうございます。

本当にそのガイドの最先端でされている方の御意見というのは重要で、そこが本当のところなんだなというのがよくわかるお話でしたし、引き続きそのガイド養成という形で文化財セミナー的なことも引き続きさせていただくことになりますので、また市の方も、それこそ今、丹後王国をはじめとするこの歴史文化をどうこれから市内外の方にもっと知っていただくかというところは重要なことだと思いますので、今後ともよろしく願いいたします。

#### <委員>

先ほどおっしゃっていたこともその通りだなと思います。それを受けて思ったのが、私はもう本当に移住者で丹後を何も知らないまま飛び込んできたという状況なんですけど、それでもやっぱり勉強していくと歴史とか文化とかそのストーリーがす

ごく面白くて、何か学んでいて楽しいっていうのがすごくあるなと思ってます。先日、開催されていた歴史文化を学ぶセミナーにも参加させていただきましたけれども、そこでお話聞いているのもすごく面白いなと思ったんです。

先ほどおっしゃっていたように、他の古墳、他の史跡をどうするんだっていうところもそうなんですけど、その丹後になぜ古墳がそんなに集まっているのかっていうストーリーの部分はやっぱり面白いなって私は思います。日本海三大古墳って言えるのが、なぜこんなに車ですぐ行ける場所にあるんだみたいなのところも面白いなって思うし、そういう点と点の繋がりのところをもっと大事にしていくことで、市民の皆さんとか、あとは近隣の地域住民には届くんじゃないかなっていうのを、先ほど御意見をと言われてたところにお返ししたいなと思ってます。

もちろんスタンプラリーとかツアーとかっていうところはすごく大事なことで、県外とか古墳がめっちゃめっちゃ好きなコアなファンの方々にはすごく刺さってると思いますし、それはそれですごく良いことですけど、先ほども課題とおっしゃってた市民に向けてっていうところでは、こういう古墳が好きの人って別にここに集まっているわけではないので、その古墳が好きじゃなくても聞いていてめっちゃ面白いみたいなの。歴史好きじゃないけど大河ドラマ好きなんだよねみたいなのレベルのライト層に届く面白さがやっぱりあるなって私は移住者として思うので、そのあたりを持っていただけたら、刺さるんじゃないかなという意見です。

#### <委員>

時間がなくなりそうなので言うておかないなと思って。

評価のところで言おうと思ってたんですが、もう今言っていた通り、私も同じ思いです。この会議の最初の頃、一生懸命議論して計画作ったときに、キーワードが2つあったんですよね。1つは「地域の光」、もう1つが「先人の息遣い」。その2つだったのを思い出していただきたいんですけども、今の議論の中で欠けている視点がそこだろうなと思ってます。

「こんなことやりましたよ」はいいんですけども、それで何が実現しましたか。この地域の価値をちゃんと伝えるようにしましたか、あるいは先人の息遣いが伝わるようにしましたかっていうところが、一番評価のポイントであるはずなんです。それが明確でないので、銚子山古墳はとでも大きいですよ、それでじゃあ誰に刺さるかっていう話なんです。来た人に、あそこ覗いてもいいよってことを絶対伝えられないんですよ、言葉がないんです。こんな価値があつて、もっと言うとなんでそんなばかどかいものを当時作ったんやと。あるいはどんな技術があつたとか、どんな必要に迫られていたとか、本当は理由があるはずなんです。明確な答えはないかもしれないけどいろいろ考えられるはずなんです。そういう中でここまで苦労してやっとこさできたんだよ。どういうことのためにしたのかはわかりません、祭りのためにしたのか、当時の偉い人の威厳を示すためだったのかわからないけれども。でもそれを引き継いで示すような方法がないと。だからそういう、昔の人が作った思いを引き継いで今我々

こうしてるんだっていうことをしないとイケないだろうなというふうに思っています。

丹後震災記念館も全く同じで、教育委員会だけじゃ駄目って本当その通りです。防災に繋がる話だし、もう明日地震が起こってもおかしくないわけで、その備えというのはとても重要で、そのための材料として資料は教育委員会がちゃんと守ります、提供します、あるいは子供達にも伝えます。でも実際にどんなことするかは消防の関係の人がしないとイケないこともあるでしょうし、いろんな部署が知恵を出し合ってこれからどうしましょうかっていうアクションを取らないとイケないですけども、そこでの教育委員会の役割は大きいと思っています。そういうふうに考えとしないといけないことがいっぱい出てくるような気はしています。それっもうちょっと同様に考えていただけると、知恵はいっぱい出てくるような気はしていますのでよろしくお願いします。

<会長>

たくさん意見が出ましたが、皆さんが望んでるところは1つのところに帰着しているなということがわかりました。

## (2) 計画措置の進捗評価 [資料4]

<会長>

それでは、次の議題に進みたいと思います。(2) 計画措置の進捗評価について事務局から説明をお願いいたします。

(事務局より資料説明)

<会長>

ありがとうございます。この場で意見言いますという方おられたらどうぞ。

<委員>

何をした、これをしましたでは僕らは議論のしようがないんです。論点を出していただきたいってことがお願いです。実はこういうことで困ってしまして皆さんの知恵を借りたいですって言われると僕らは議論ができるんだけど、あれもしましたこれもしましたって言われて、その評価はどうですかと言われても、なかなか評価難しいですね。物差しをちゃんと持ってどこまでできましたかという、課題は何でしょうねって議論になるけど、そのあたりが一貫して出てないのでなかなか議論するのが難しいっていうのが正直なところなんで、今後そのあたりを工夫していただけるとありがたいと思います。

<事務局>

ありがとうございます。もともとこの推進協議会は、地域計画の進捗確認をしていただく場ということになっておりますが、今おっしゃっていただいたようなことってというのが、この会を開催して御意見をいただく場という意味では、そこが本当に中心なのかなと思います。もちろんそれ以外の細かなところでの評価っていうのはあります。それはそれで、事務局からこれをこう評価したけど、こういうことで皆さんお願いできませんかという具体的話や、今いただいた論点のことも入れて工夫していきたいと思います。

冒頭申し上げましたが、令和8年度はスケジュール感もしっかり持って気を引き締めてやっていきたいと思います。

<委員>

お願いします。4月1日から人事異動にでもなったら申し送りもしっかりしてください。本当に切なる願いです。

<会長>

ということで、この評価、御質問、今日のこの場ではとてもじゃないですが出てこないと思いますので、引き続き事務局の方に御質問をしていただくということでよろしいでしょうか。

<事務局>

御質問はもちろんのこと、総括的なことを冒頭の会議でさせていただくことになると思いますので、その時にでももしあれば御意見頂戴できればと思います。

<委員>

もう1点、数字を把握してないというコメントが結構あるんですね。どの課も。数字で評価するつもりはありませんが、でも数字ほど正直なものはないです。それはもう皆さん現場で一生懸命やっておられるので。旅館件数とか売上だし。なのでやっぱり数字に対する執着というのか、それはしっかりと持っていて、100%出せなんてことはとてもできないんですけども、やっぱそこに努力していただいたというものが結果として現れるということをしていただかないと、何してたんだと、変なことですけどそういうことになりかねないこともあるので、数字には執着していただきたいです。

<事務局>

ありがとうございます。当然その数字のところ、把握できるできないあるかと思うんですけども、今おっしゃったように、もう少し執着と言いますか、そのところを限りなく知るべく努力すべきだと思っています。中で資料が提供できないとかいうこ

とはこの協議会において本来あってはならないことだと認識していますので、そのところも事前に数字なりわかるものをお出しできるように、数字じゃないけどこんなものを出しましたというものでも出せると思っていますので、またよろしく願いいたします。

<会長>

それでは次に、3その他について説明をお願いいたします。

その前に、Zoomでの参加の先生方とか、他の委員の方、何か御意見ございませんでしょうか。

<委員>

今日は、建設関係、まちづくり、観光関係の方は委員会来られてないんですかね。

<会長>

行政の方でしょうか。観光公社とか入っておられませんか。

<委員>

名簿も何ももらってないんで、今日どんなメンバーかわからないんですが。

<事務局>

事務局では参加してないです。

<委員>

基本的にこの地域計画は教育委員会だけでなく、観光、まちづくりなども含めて行政全体でやっていきたいと思いますという計画のはずです。

網野銚子山古墳の観光客等の把握の仕方、観光の方と一度話をされた方がいいと思います。多分、赤外線の入館者数はかっても数字だけしか取れないので、例えば若い人がきているのかとか、それを見てどう思ったのかとか、フィードバックしていかないと単にいっぱい来て良かったで終わってしまうので。そうじゃないと思うんですよ。網野銚子山古墳一つとっても。

もう1つちょっとお勧めしたいのは、どうやって地域の人に活用してもらえるかという話がでてると思うんですが、文化庁の方で、全国各地の魅力的な文化財活用推進事業っていうのをやっています。こちらの方、実行委員会や協議会を作って、補助率がだいたい7割出るので、地元の方と連携して上手くするとか。やはり最初は行政が伴走しないと動かないような気がしています。実は我々も恭仁宮で地元の方を巻き込んでいろいろやっているんで、この辺はまた御相談していただければ、いろいろ参考になることをお伝えできればと思うので、引き続きよろしく願いします。

<事務局>

ありがとうございます。京都府の皆様には、銚子山に関しては整備の段階から大きく御助力をいただいているところですし、オープニングイベントにもお越しいただきました。これからもっと良くしていきたいという思いを事務局持っておりますので、また今後とも引き続き御意見のほどよろしくお願ひします。ありがとうございます。

<会長>

そのほか、お願ひします。

<委員>

今日お話を聞いていて、いろいろ今年度されてたなと思うんですけど。ツアーだったり今後とも継続していくということや、地元の人をもっと知ってもらきかけって話をされてたんですけど、観光公社であつたりのサイトを見ても、古墳に行けるってことを触れてないんですよ。京丹後観光で調べてもGoogleマップで網野銚子山古墳のピンとかも出てこないですし、地元の人が外の人を案内するっていうことも含めて、外の方は観光って調べたときに行ける場所に行くと思いますので、もうちょっと行ける古墳だったり観光コンテンツとして打ち出すときに、そういうGoogleマップのピン止めだったりとかを。スタンプラリーとかしてるからサイトには載ってるっていうふうな話だとは思んですけど、簡単に検索して見えるっていうシステムが今ないんじゃないかなと思っています。それをやることによって地元の人にも薦められるコンテンツとして認識できるのかなと思うので、そこを観光公社だったりに働きかけて。ポスターとかも京丹後市いろいろと作られてるじゃないですか。そこにちりめんはあっても歴史文化っていうのが1つもないなっていうふうに思うので、載せたらいいんじゃないかなと感じた感想です。以上です。

<委員>

いろいろな話を受けてずっと思っていたんですけど、今DMOの中の文化観光サポーターとして来ていて、もっと橋渡しができて良かったんですけど、DMOの話が出て「餅は餅屋」って言われてたのがすごくショックで、同じ建物にいるのにとあって、DMOってこの建物の中なんです。歩いていけるんですみたいな話もあって、なんでそこっていつも協力しないんだろうって思うし、あと、文化財保存活用課だけではなくて京丹後市にいつも思うのは、先ほどもおっしゃっていたインターネットの使い方がめちゃくちゃ下手だなっていうのはすごく思います。そういうのに強いのが他の課とか他の会社とかに結構おられます。京丹後市だけじゃなくて北近畿全般におられますし、私もそういうところにつなげられるところはつなげさせていただきたいと思ひます。DMOの中にこういう意見持っている人いないかって言われたら私も定例の会議とかで発言させてもらひますので、餅は餅屋じゃなくて、つながろうという意識を持っていたらいいかなと思ひます。

この委員会の方もいろんなところに顔を出されてるっていうのも今お聞きしたところで、「あ、そうなんだ」じゃなくて、こういう方おられますかとか、DMOなら何かありますかとかそういうのがあったら、意見が出しやすいなと思います。弱いところは他のところに頼ればいだけの話なので、今先ほどおっしゃられたGoogleとか弱いんだったら他のところに頼ってやっていってもらいたいなと思います。

<会長>

ありがとうございます。その他、御意見は。

<委員>

あまり観光公社の支部までは情報が入って来ないんですよ。自分から行くと担当している者が、「今度ツアーやるんだけど」って相談をしてくれるんですけど。今年も、まりこふんさんのツアーとかがあって、ちゃんと見てないですが。

<会長>

観光公社さんのね。現在動いてるみたいですね。

<委員>

あれもやる時に、まりこふんさんという人もおられると教えてんです。そういうのを使ったらどうって。大体あの古墳ブームとかが5年ほど前にあったので。それがあるのでこの場にいるのかもしれませんが。

### 3 その他

<会長>

では、よろしいでしょうか。議題3その他について説明をお願いいたします。

<事務局>

皆さんありがとうございます。

その他なんですけども、今後のスケジュール的のところ、来年度のスケジュール的のところについて説明をさせていただきたいと思います。

前回の委員会でも説明があったと思うんですけども、来年度は次期計画を大体固めていくという年度になりまして、5回この委員会を開催する予定にしております。それで、令和8年5月ごろに1回目の会議を開くような段取りで進めたいなと思っておりますので、御承知ください。内容は今までの総括に向けての検討ということになるかと思いますが、また日程調整をさせていただきたいと思っておりますので、御承知いただければと思っております。それで、令和8年度で固めて令和9年度にパブリックコメント等をした上で、令和9年8月に文化庁の認定申請というスケジュールを

描いておりますので、御協力をいただければと思いますのでよろしくお願いします。

<会長>

では、議事はすべて終わりましたので、事務局に進行をお返しいたします。

#### 4 閉会

<事務局>

皆様、長時間にわたり会議の方、大変ありがとうございました。閉会にあたりまして、オンラインですが、副会長から御挨拶いただけますでしょうか。よろしくお願いします。

<副会長>

では皆様、活発な御議論ありがとうございました。

それぞれの事業が順調に進んでいるということが確認できたかと思います。一方で、なかなかまだ課題もあって、特に「つながる」ということが上手くいっていないというか見える化されていないのかなと思います。それは山陰海岸ジオパークの方も課題で感じるところでありますけれども、つながることが具体的に必要だということが、この協議会でも共有されていることが大事だと思います。実際に現場に行くと、つながることの必要性を感じていない方、つながると仕事が増えるんで面倒くさがる方も結構多いです。そういうところで、つながることが大事だと認識されていることはとても心強く感じました。今後、また委員の皆様方につきましては、つながることをより多くの人に必要性を説いていただいたり、あとは実際につないでいただいたり、事務局だけでつなぐのはなかなか難しいですので、実践者として主体的に推進していただければ大変ありがたいと感じております。本日は誠にありがとうございました。

<事務局>

ありがとうございました。これをもちまして、令和7年度第2回京丹後市文化財保存活用地域計画推進協議会を終了いたします。皆様、ありがとうございました。